



しらた満 (青空りっけん)

これからの多摩市民の安全・安心の確保

問 本年2月5日、雪で和田緑地の樹木が倒れて電柱が折れ、通学路である、バス通りの中和田通りが通行止めになり、乞田川の桜木が倒木するなど、市内の樹木の倒伏・落枝など被害があった。梅雨や台風に備え緑の保全地区、公園緑地街路樹などの高木が配電線と接触し漏電等危険な状態や、年を経た樹木の安全など維持管理について問う。

答 中和田通りの倒木は外見上は兆候は見られなかったが断面は一部腐っていた。今後は道路に近い木は一層安全確認が必要と認識している。電柱・電線保安上の管理は事業者が行うが民間事業者と協議して検討したい。街路樹は人命に直結する箇所は優先的に対応を図って行く。

問 管理方法として国土交通省が支援する道路等包括管理事業について府中市の事例等があるが見解を問う。

答 多摩市にとってより良い形は何か検討をしていく。

問 不審者の見守り、再発防止と触法障がい者の対応として多摩市には無い基幹相談支援センターの設置について問う。

答 令和8年までに進められるような考えである。



令和6年能登半島地震被害に対する義援金を送りました

この度の地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様方に対し心からお見舞い申し上げます。

一日も早い被災地の復旧・復興を支援するため、多摩市議会では今回の災害に対する義援金として26万円を、2月16日に北信越市議会議長会の災害義援金口座へ送金しました。



多摩市議会議長
三階 道雄

KPKAの出前授業「平和の語り部になろう！」 ～合言葉は「微力だけど無力じゃない」～

たま市議会だより2月5日号の市民と議会のコーナーに掲載した恵泉学園大学平和紙芝居研究会KPKA(クプカ)の学生たちは、多摩市内の小中学校と都立多摩桜の丘学園などで平和紙芝居『二度と』を使った平和授業を展開しています。授業のテーマは「平和の語り部になろう！」です。

去る2月8日(木)、多摩永山中学校での授業を参観に伺いました。広島と長崎に落とされた原子爆弾の話、戦争と平和の話の後に、KPKAメンバーが『二度と』を実演すると教室の空気は一変しました。

その後グループに分かれて生徒全員が『二度と』を声に出して読む「演じ手体験」をし、感想を共有し合います。その上で「平和のた



めに自分に何ができるか」を考えるというのが授業の目標です。

授業を参観して改めて、この平和授業をより多くの市民に体験して欲しいと感じました。多摩永山中学校の校長先生はじめ生徒の皆様、KPKAの皆様、顧問の岩佐先生、ご協力ありがとうございました。

～この授業を受けた生徒が綴った 「平和のために自分がしたいこと、できること」～

- *この話を忘れずに覚えておく。そして、次世代へと語り継ぐ。
- *時間があるなら、実際に現地へ足を運び、より身近で感じたい。
- *家族や友達に感謝し大切に。
誰かを幸せにできる人になる。
- *戦争について軽く考えないこと
- *リトルクプカとして活動を続けていきたい。
活動の幅をひろげたい。
- *もっともっと戦争・平和について学んでいきたい。

KPKA 顧問 岩佐先生からのコメント

KPKAの学生たちは、昨年暮れに広島に行き、被爆者の方と平和学を研究している方からいただいた言葉を、子どもたちに授業内で伝えていきます。「原爆は昔話ではありません」「平和はあるものではなく創り、守るものです」と。KPKAは「微力だけど無力じゃない」を合言葉に、平和を創り守るために何ができるかを地域の方々と共に学び、考え、行動したいと願っています。大人の方にも平和授業を体験していただければ幸いです。

恵泉学園大学 人文学教授 岩佐玲子